

# 水産物消費実態調査

(水産庁職員へのアンケート結果)

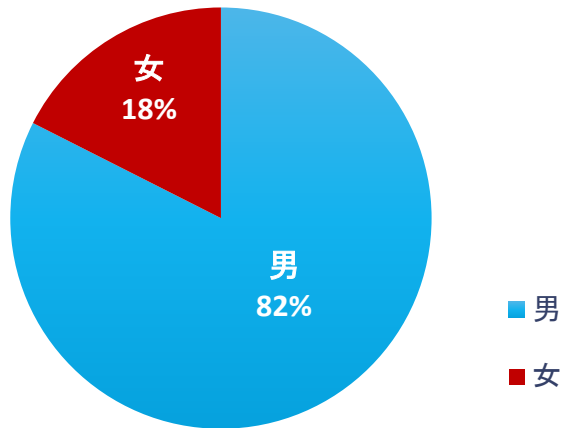
---

令和3年4月  
水産庁

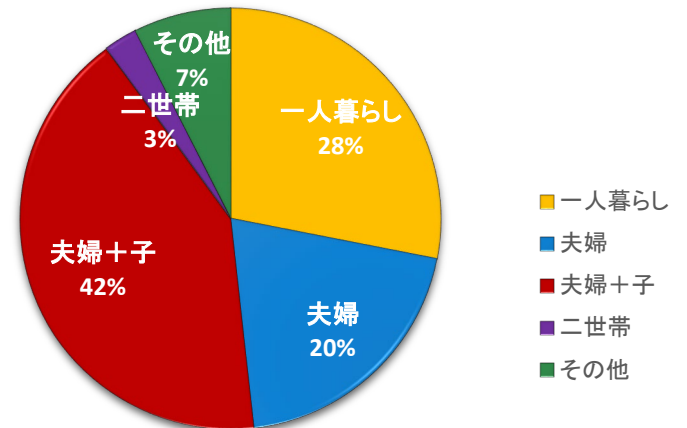
# 本調査の概要

本調査は、水産庁本庁職員を対象に、外食、内食、中食での魚介類の消費動向について調査（水産庁本庁職員の約5割（228名）が回答）。

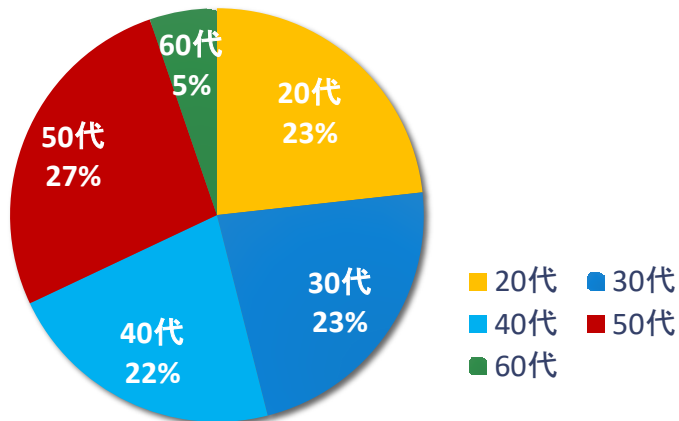
## 性別



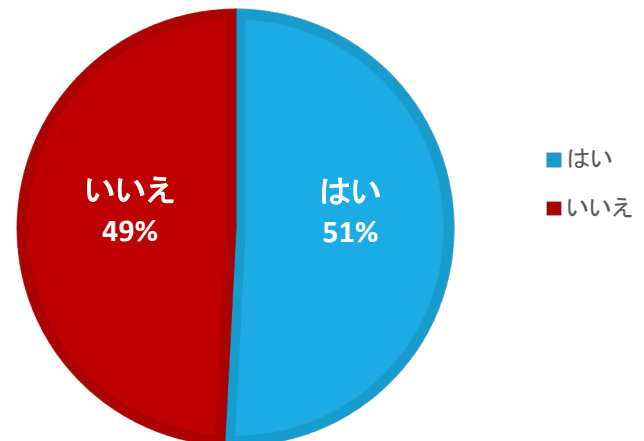
## 家族構成



## 年齢割合

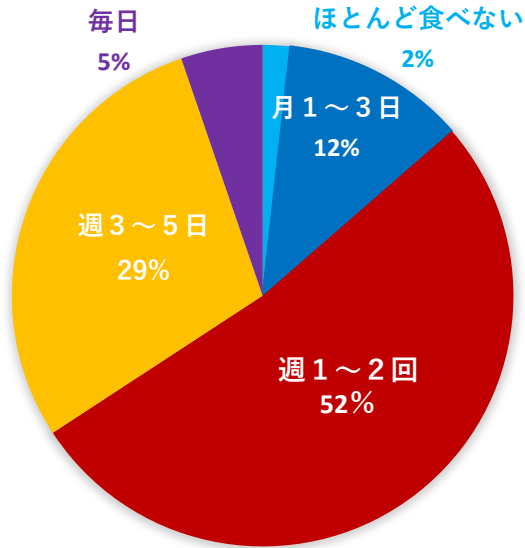


## (配偶者がいる人に対し) 共働きか否か



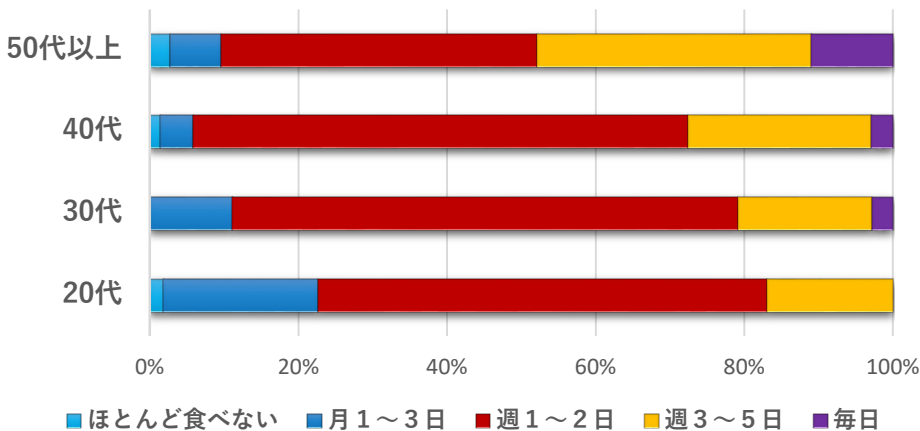
# 調査結果 水産物の摂取頻度

## 全体結果

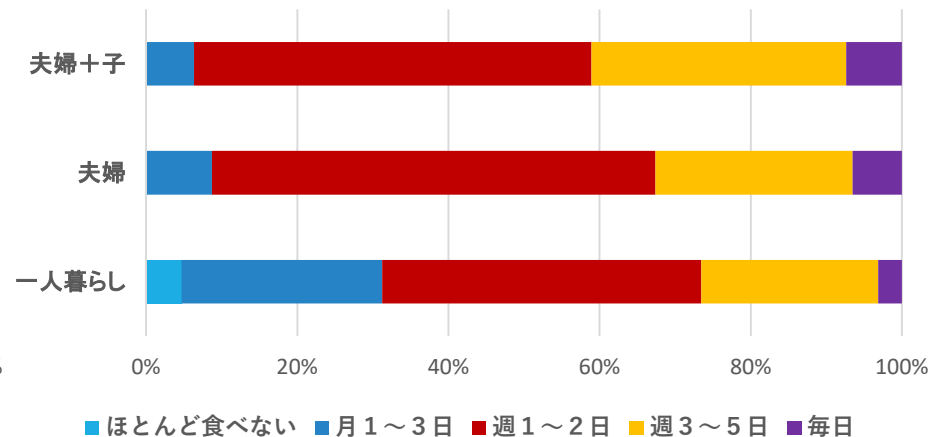


- ✓ 週1～2回食べると答えた割合が全体の半数。週3日以上食べると答えた割合は全体の約3割。
- ✓ 年代が上がるにつれ、水産物の摂取頻度が増加。世帯別では一人暮らしが最も摂取頻度が少なく、世帯構成員が増えるにつれて頻度が高くなる傾向。
- ✓ ほとんど食べない世帯の割合は、一人暮らしの男性が多く、その理由として、手間がかかる、単価が高いとの回答が多かった。

## 世代別摂取頻度

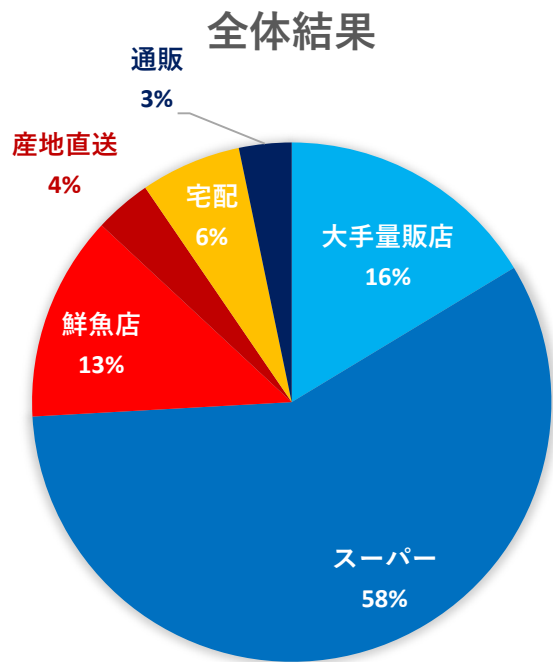


## 世帯構成別摂取頻度

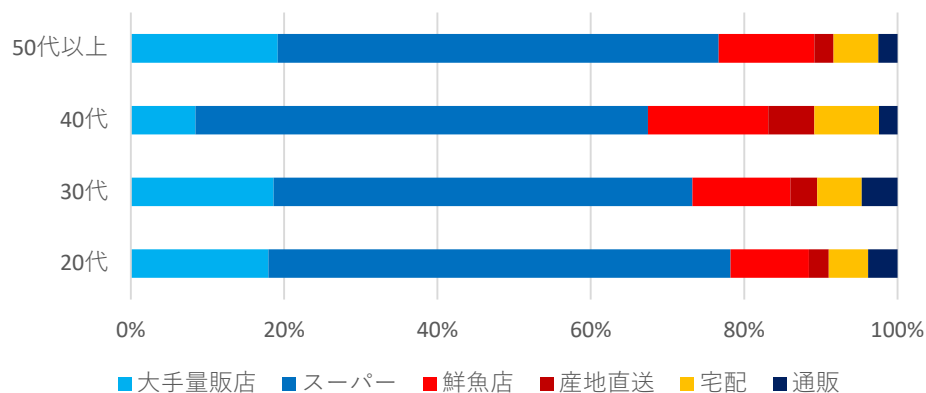


# 調査結果 水産物の購入傾向（購入方法）

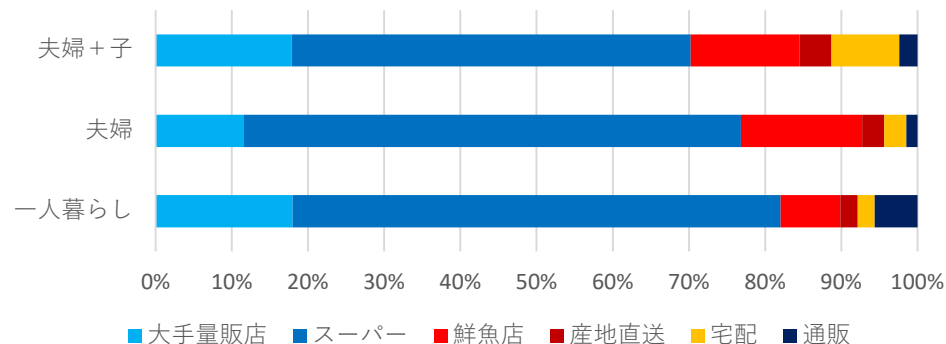
- ✓ 全体の約70%が大手量販店やスーパーで水産物を購入。
- ✓ 年代別では40代が鮮魚店、産地直送、宅配での購入割合が高く、より多様な方法で購入する傾向。
- ✓ 世帯別では夫婦+子世帯で生協等の宅配を利用する傾向が強く、一人暮らし世帯は鮮魚店の利用が低い一方、通販の利用が高い。



年代別購入方法

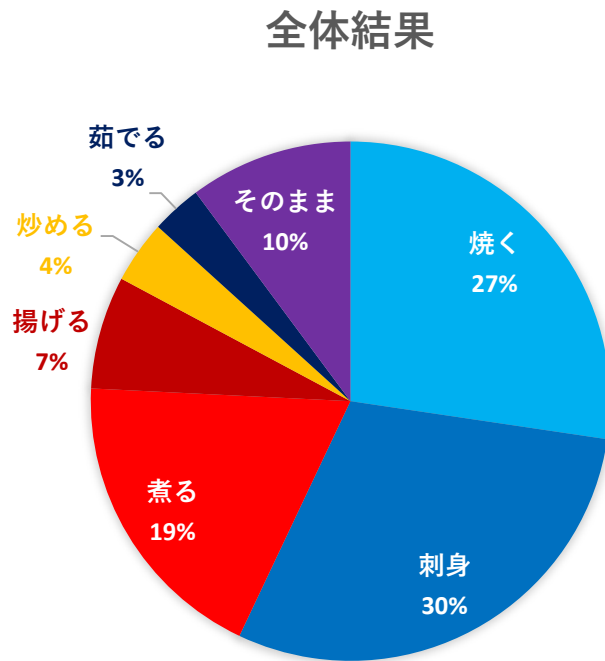


世帯別購入方法

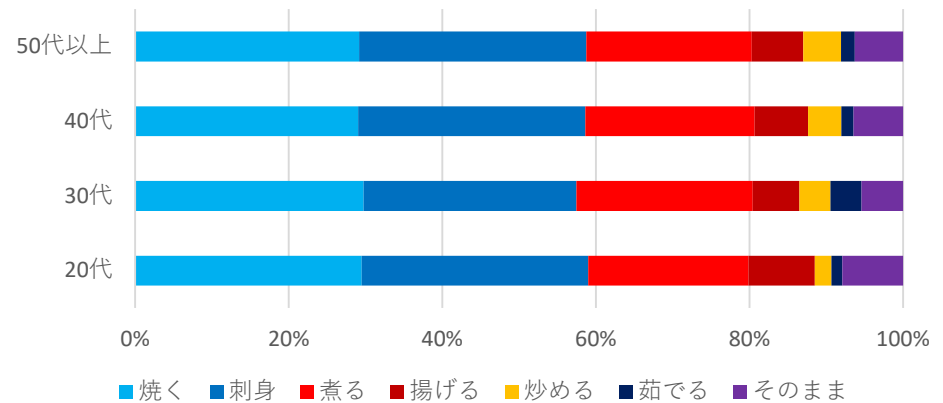


# 調査結果 水産物の調理方法と嗜好

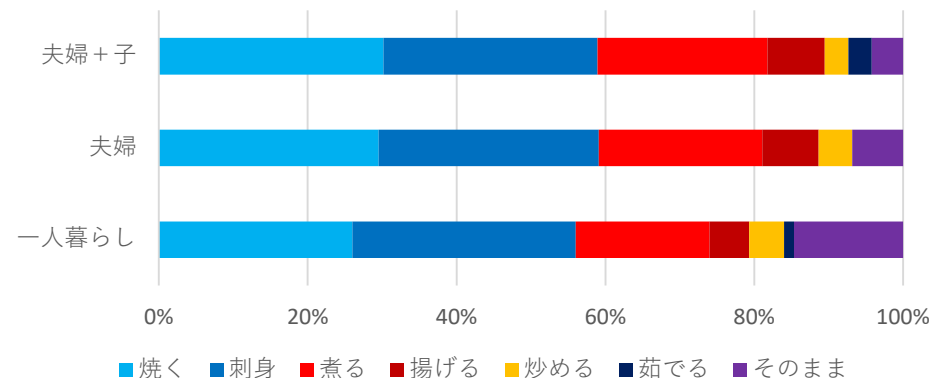
- ✓ 焼くか刺身が全体の約60%を占めている。
- ✓ 年代・世帯に依らず同様の傾向が見られるが、一人暮らし世帯でより加工品や総菜等をそのまま食べる傾向。



### 年代別調理方法

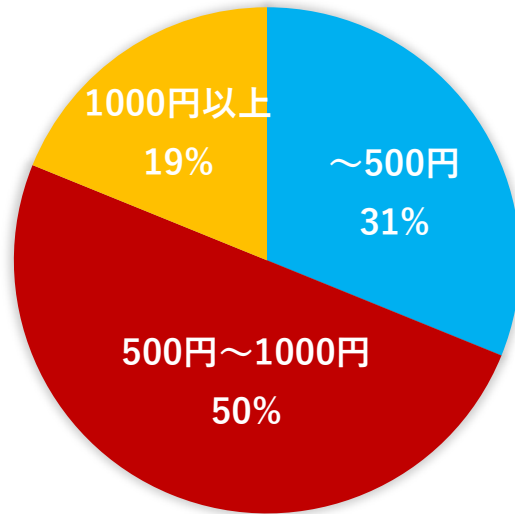


### 世帯構成別調理方法



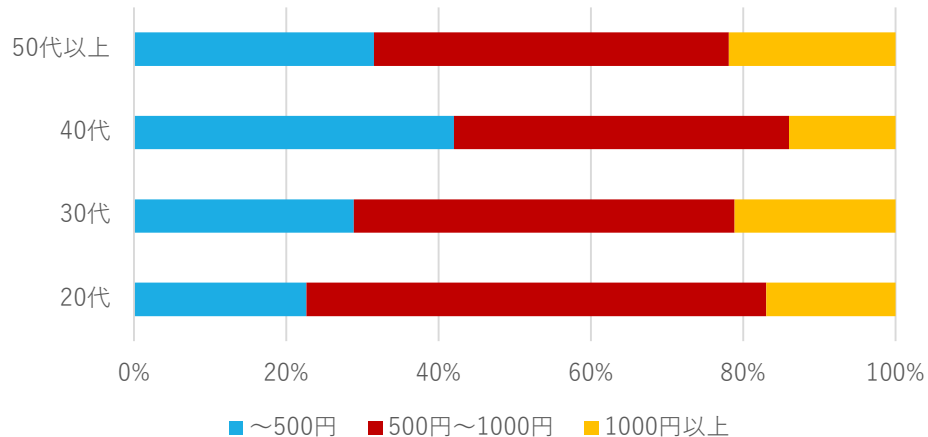
# 調査結果 水産物の購入金額（内食）

## 全体結果

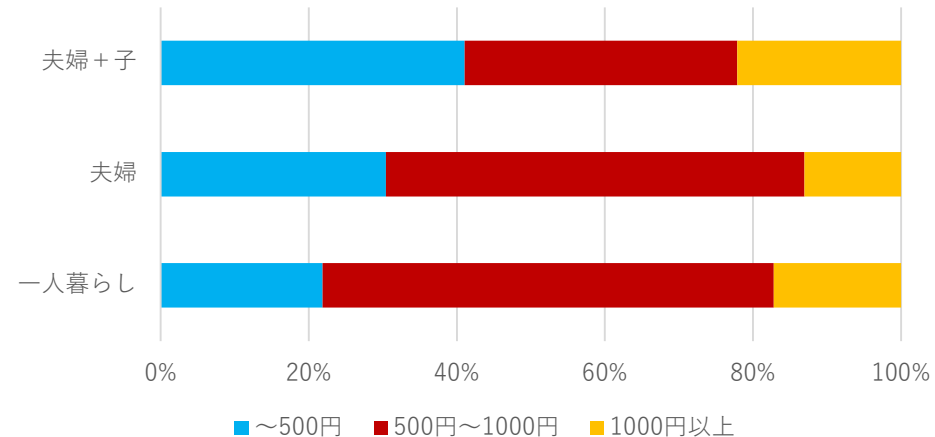


- ✓ 500円~1000円が全体の約半数。  
年代では40代の約40%程度が500円以下、世帯では夫婦+子世帯の約40%が500円以下とする傾向。

## 世代別1人当たり魚介類購入額

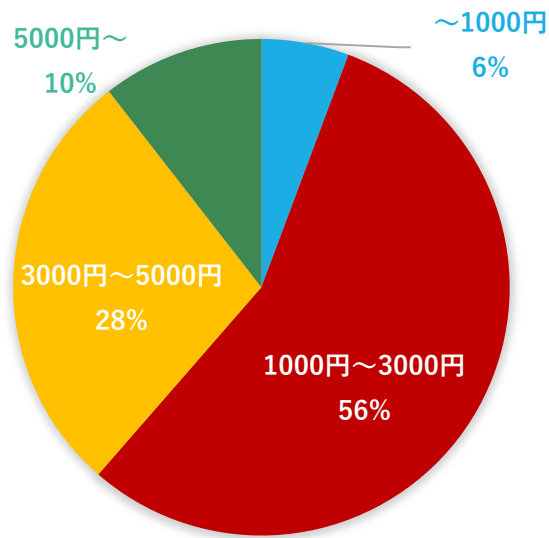


## 世帯構成別1人当たり魚介類購入額



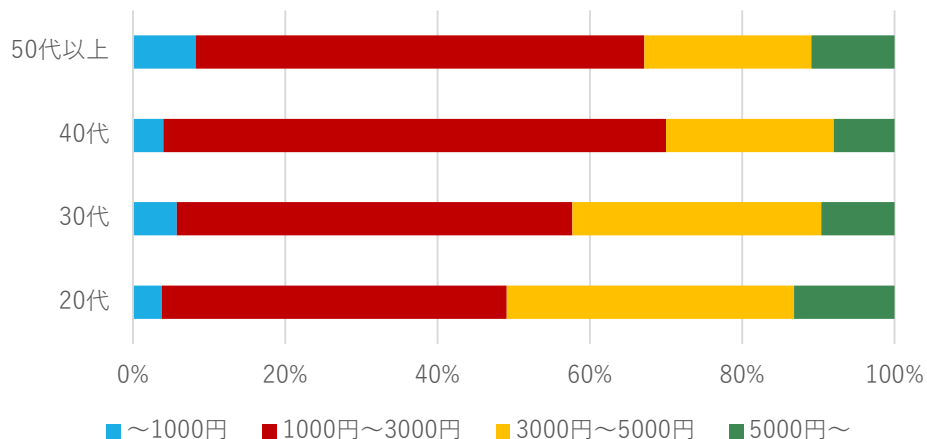
# 調査結果 水産物の購入金額（外食）

## 全体結果



- ✓ 3000円以内が全体の6割以上。年代では若い年代ほど購入金額が多い傾向。3000円以上の割合は、世帯別では一人暮らし世帯がやや多く、夫婦+子世帯がやや少ない。

## 世帯構成別 1人当たり外食での魚介類消費額



## 世帯構成別 1人当たり外食での魚介類消費額

